

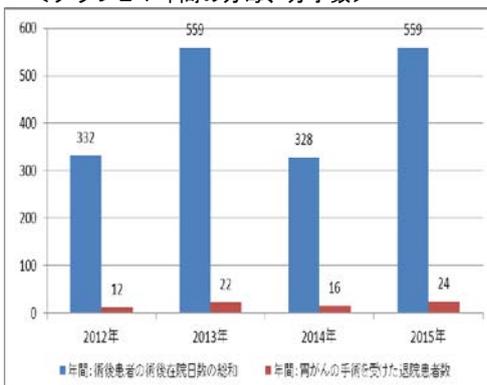


# 【胃がん術後平均在院日数】

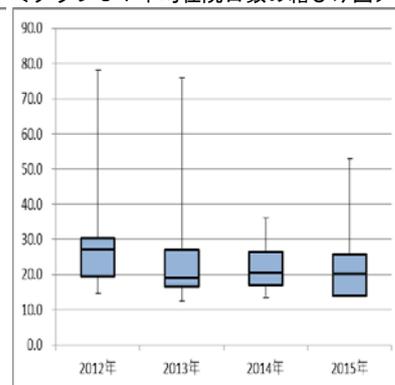
＜グラフ1：当院の術後平均在院日数＞



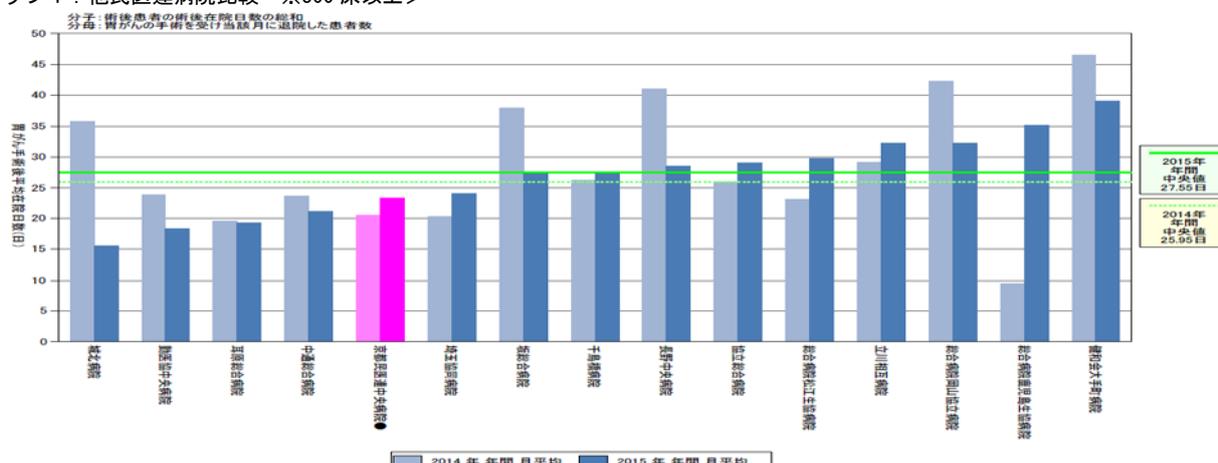
＜グラフ2：年間の分母、分子数＞



＜グラフ3：平均在院日数の箱ひげ図＞



＜グラフ4：他民医連病院比較 ※300床以上＞



分 子：胃がん術後患者の術後在院日数の総和 [胃がん術後(手術日を含まない)から退院日までの日数]  
 分 母：胃がんの手術を受け当該月に退院した患者数 ※全日本民医連Q I 推進事業より(年間)  
 →計測期間内に「退院した」患者のうち、「胃がん」を主病名として入院し、かつ、入院中に全身麻酔による手術治療(開腹もしくは腹腔鏡下による胃切除・胃部分切除)を受けた患者数 ※内視鏡的治療は含まない

※注釈※

・術後にリハビリ等の実施や別疾患発症のため、急性期病棟から療養病棟などの慢性期病棟に転棟し退院する事がある。  
 この場合、慢性期病棟退院までの日数を術後在院日数として計上する

## 【意義】

- 医療の質の評価、胃がん術後管理の評価として在院日数を検証する
- 術後に合併症・続発症が発生すれば、在院日数は長くなるため短期での退院は、術後管理が適切に行われたと考えられる

## 【結果、考察】

- 昨年と比較すると術後平均在院日数が増加しているが、対象となる患者数も直近4年のうち最多となっており、昨年よりも8例増加している。
- 箱ひげ図を見ると、長期入院となったケースが発生しており、これが今年の日数増加に影響を与えていると考えられる。しかし指標の定義上、慢性期病床へ転床し退院した場合も日数計算の対象となる為、一概に急性期医療の質の良し悪しは判断できない。
- 他民医連病院との比較では、日数の少ない群に位置しており、中央値よりも短期間での退院が行えていることが分かる。